

30日で
最終チェック

歯科医師 国試対策の テッパン 鉄板

口腔外科・歯科麻酔・歯科放射線

【編集】

歯科医師国家試験を考える会

医歯薬出版株式会社

1

歯・歯周組織の疾患と治療

頻出必須ワード 40

他・注意したい項目を書き出そう

<input type="checkbox"/> 抜歯, 下顎埋伏智歯の抜歯	<input type="checkbox"/> 過剰歯	<input type="checkbox"/> 癒合歯・癒着歯	<input type="checkbox"/> 切開排膿	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 萌出異常	<input type="checkbox"/> 加齢	<input type="checkbox"/> 鋭匙	<input type="checkbox"/> 先天性梅毒	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 歯の着色, 着色, 歯の色調異常	<input type="checkbox"/> 感覚異常	<input type="checkbox"/> 合併症	<input type="checkbox"/> 挺子	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> エナメル質形成不全	<input type="checkbox"/> 形態修正	<input type="checkbox"/> 側切歯欠如	<input type="checkbox"/> ビタミン欠乏症	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 抗菌薬投与	<input type="checkbox"/> 再植	<input type="checkbox"/> 歯科用コーンビームCT	<input type="checkbox"/> 副腎皮質ステロイド軟膏	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 開窓療法, 萌出誘導	<input type="checkbox"/> 歯髄壊死	<input type="checkbox"/> 歯根尖切除	<input type="checkbox"/> 味覚障害	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 歯肉増殖症	<input type="checkbox"/> 重症新生児黄疸	<input type="checkbox"/> 萌出嚢胞	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> Turner 歯			

〈総論〉

1 おさえておくべき基本知識

※ P: 最新口腔外科学第 5 版, 医歯薬出版参照頁

1 定義 (P115, 684)

- 歯の異常には, 形態異常, 色調の異常 (いわゆる着色を含む), 歯数の異常および萌出異常がある。
- 歯の損傷時には, 歯だけでなく, 歯周組織の損傷や歯槽骨骨折を合併していることも多い。
- 歯および歯周組織の損傷に加え, 歯槽骨骨折の併発の有無を正確に診断することが必要である。(歯の損傷については, 4 章 (P33) で述べる)

2 解剖

1) 歯・歯周組織の解剖 (P654) (図 1-1)

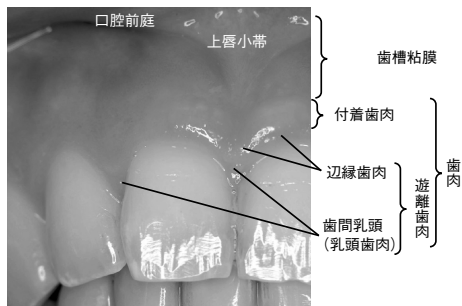
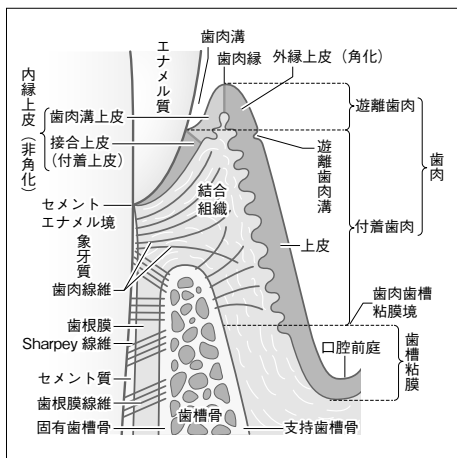


図 1-1 歯・歯周組織・歯槽骨の解剖 (最新口腔外科学第 5 版 図 5-1-1, 図 5-1-2 より)

2

先天異常

頻出必須ワード 36

他・注意したい項目を書き出そう

<input type="checkbox"/> Down 症候群	<input type="checkbox"/> 先天性表皮水疱症	<input type="checkbox"/> 構音障害	<input type="checkbox"/> 開鼻声、鼻咽腔閉鎖不全	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 鎖骨頭蓋骨異形成症 <鎖骨頭蓋異骨症>	<input type="checkbox"/> 歯の形態異常	<input type="checkbox"/> 低フォスファターゼ症	<input type="checkbox"/> 巨舌症	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Apert 症候群	<input type="checkbox"/> 基底細胞母斑症候群	<input type="checkbox"/> 口唇形成術	<input type="checkbox"/> 口輪筋の再構築、口蓋帆筋の再構築	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Crouzon 症候群	<input type="checkbox"/> 口蓋裂	<input type="checkbox"/> 歯内歯	<input type="checkbox"/> 上皮真珠、歯肉嚢胞	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Marfan 症候群	<input type="checkbox"/> 大理石骨病	<input type="checkbox"/> 心疾患	<input type="checkbox"/> 糖尿病	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Treacher-Collins 症候群	<input type="checkbox"/> 歯の萌出遅延	<input type="checkbox"/> スピーチエイド	<input type="checkbox"/> Turner 歯	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Turner 症候群	<input type="checkbox"/> 第一第二鰓弓症候群、Goldenhar 症候群	<input type="checkbox"/> 性染色体異常	<input type="checkbox"/> 顎裂部骨移植	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Beckwith-Wiedemann 症候群	<input type="checkbox"/> 骨格性不正咬合	<input type="checkbox"/> 正中過剰歯	<input type="checkbox"/> 唇顎口蓋裂、唇顎裂	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 骨形成不全症	<input type="checkbox"/> 口唇裂・口蓋裂	<input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症	<input type="checkbox"/> 歯のフッ素症	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> Robin シークエンス <Pierre Robin 症候群>	<input type="checkbox"/> 常染色体異常	<input type="checkbox"/> タウロドント	<input type="checkbox"/> 口蓋形成術	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 先天性外胚葉異形成症、先天性外胚葉形成不全	<input type="checkbox"/> 多数歯埋伏	<input type="checkbox"/> エナメル質形成不全症	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 哺乳障害	<input type="checkbox"/> 粘膜下口蓋裂	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 歯の着色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> パラトグラム検査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

〈総論〉

1 おさえておくべき基本知識

1 定義 (📖 P110)

個体の胎生期発生の途中で生じる**形態的**および**機能的**異常のことを先天異常という。

2 成因

1) 遺伝的要因 (📖 P110)

ヒトの染色体は **44** 本の常染色体と **2** 本の性染色体からなる。

性染色体に依存する遺伝形式を**伴性遺伝**という。

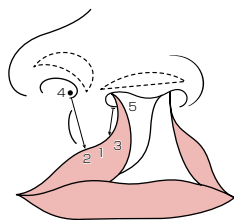
1 つの遺伝子座に異なる遺伝子が共存し、形質の現れやすいもの（優性）と現れにくいもの（劣性）がある場合、優性の形質が表現形として表れる。近年、優性を**顕性**、劣性を**潜性**という。

遺伝形式には**常染色体優性遺伝**、**常染色体劣性遺伝**、**伴性優性遺伝**、**伴性劣性遺伝**、**多数遺伝子組合せ遺伝**などがある。

2) 胎生期環境要因 (📖 P110)

胎生期環境要因は、出生までの胎児に対しての**子宮内**もしくは母体自体の環境因子である。

胎生期環境には、胎児の異常体位などの物理的要因、放射線の影響、**副腎皮質ステロイド**薬やサリドマイドなどの化学物質、**疱疹**ウイルスや**風疹**ウイルスの感染、栄養や年齢などの母体環境がある。



患側の白唇の長さが、健側に比べ短い。すなわち、点4～点2 > 点5～点3である。点5～点3を延長するように設計する。

図 2-5 口唇形成術の考え方

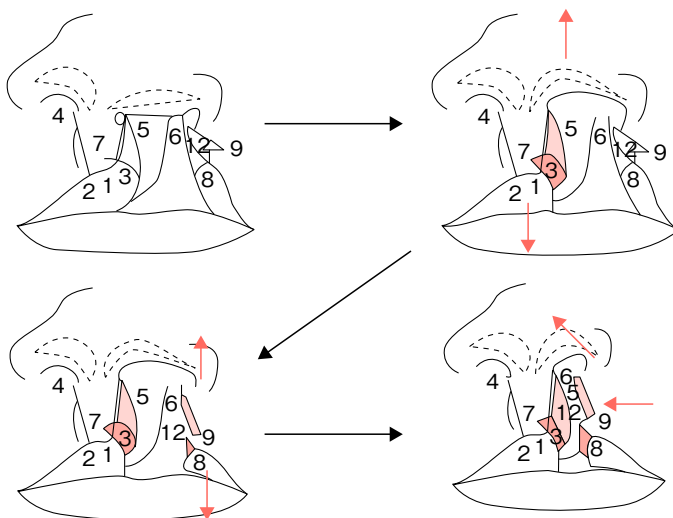


図 2-6 三角弁法 (Tennison-Randall 法) のステップ

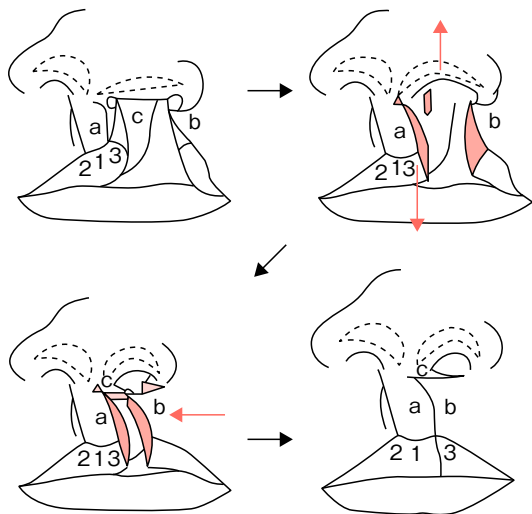


図 2-7 Rotation-advancement 法 (Milard 法) のステップ

- 両側同時に口唇形成を行う方法には Manchester 法, Mulliken 法などがある。
- 二次手術には下唇の有形皮弁を使う Abbe 法がある。
- 口唇裂では口輪筋の断裂がみられ、口唇形成術では裂の閉鎖と共に同筋の再建を行う。



MEMO

2 「下顎前突症」についての重要知識

1 下顎変形症 (P145)

- 下顎前突症は、頭蓋を基準として下顎が正常よりも**前方位**にある。
- 下顎前突症は、長頭型の欧米人よりも**短頭型の東洋人**に多い。
- 下顎前突症の手術治療は、下顎の**後方移動術**が基本となる。
- 下顎後退症は、咬頭嵌合時に下顎の歯列が上顎の歯列よりも**後方位**にある。
- ☞☞ 下顎後退症患者の側貌は、下唇とオトガイ部の後退がみられる**ために bird face (鳥貌)**を示す。
- 頭部エックス線規格写真分析では、頭蓋を基準として下顎が正常よりも**後方位**にある。
- 頭部エックス線規格写真分析では、下顎骨の**B点**の位置が、下顎の位置の指標の1つである。

2 下顎変形症の手術 (P723, 726) (図3-6, 7, 8)

- 顎矯正手術のうち、下顎枝矢状分割術の口腔粘膜の切開は、両側の第一大臼歯部から**筋突起前縁**相当部まで行う。
- 下顎枝矢状分割術の骨切り線は、下顎枝内面では**下顎孔**と下顎切痕の間を、下顎骨外面では**大白歯部**の頬側皮質骨に設定する。
- 下顎枝矢状分割術の骨切りは、下顎枝内面骨切り線から下方に向かい下顎骨外面、内外の骨切り線を結ぶように**矢状**方向に骨ノミで分割する。
- ☞☞ 下顎枝矢状分割術の長所は、①口腔内から手術が可能、②分割した骨片間の接触面積が**広い**ために**骨創の治癒**が良い、③下顎前突・後退、開咬など**適応**が広いなどがある。
- ☞☞ 顎矯正手術のうち、下顎枝垂直骨切り術は下顎切痕から下顎下縁にかけて下顎孔後方で垂直に骨切りする**ために**、**下歯槽神経**の損傷が少ない。

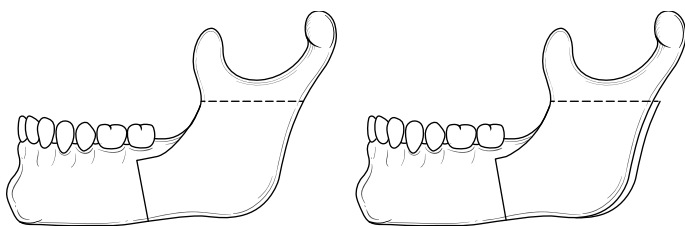


図 3-6 下顎枝矢状分割術 (Obwegeser-Dal Pont 法)

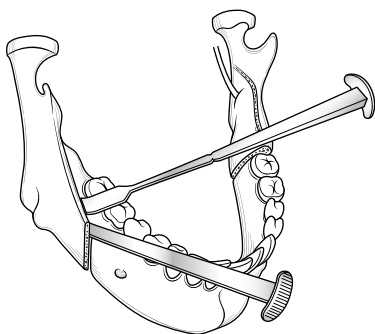


図 3-7 下顎枝矢状分割術 (Obwegeser-Dal Pont 法)

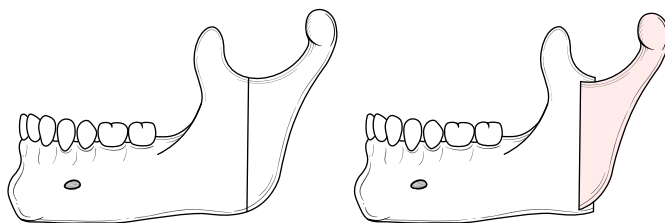


図 3-8 下顎枝垂直骨切り術

2 画像所見と鑑別のポイント (歯科放射線学：P237～441)



①病変の部位，②大きさならびに形態，③境界の明瞭性・辺縁の状態，④内部性状，⑤周囲の状態，⑥重要な解剖構造との関係，⑦左右の対称性についての所見を把握することが鑑別のポイントとなる。

1 所見の各要素単位でのポイント

1) 部位および解剖構造から発生部位・組織系を類推する

- 部位特異的な組織から発生した病変であれば，**発生部位**から類推が可能。
- 骨内から発生した病変であれば，隣接する軟組織ないし上顎洞内や鼻腔内に進展した場合，**骨膨隆**を伴っているか，その痕跡が残っている。
- 歯原性の病変は，基本的に歯槽突起部から発生し，歯周炎による骨吸収は，基本的に**歯**に沿って生じる**ため**，これら基本に合致しない場合には，非歯原性の疾患，悪性腫瘍など別の疾患を疑う。
- 腺系腫瘍は，大唾液腺，小唾液腺から発生することが多いが，一般的に**小唾液腺**から発生した場合，悪性腫瘍の可能性が高い。
- 血管系，神経系，あるいは組織球・リンパ系の病変は部位**非特異的**に発生しうる。

2) 境界および辺縁の状態から病態を類推する

- 一般的に嚢胞および良性腫瘍は境界明瞭＋辺縁整だが，**炎症**を併発した場合には，該当部を中心に境界不明瞭＋辺縁不整となる。
- 急性**炎症に伴う吸収性骨変化は臨床症状から遅れ，**慢性**炎症を示唆する反応性の硬化像は症状消失後も比較的長期に渡り残留しやすい。
- 腫瘍のうち**悪性**腫瘍は境界やや不明瞭＋辺縁不整であるものが多い。
- 嚢胞は上皮表層からの脱落物の蓄積で浸透圧が上昇し，風船のように増大する**ため**，腫瘍性病変と比較し，膨隆の程度は**低い**傾向にある。
- 骨膜反応が認められた場合に，鑑別すべき疾患として慢性骨髓炎，**ARONJ (MRONJ)**，**骨肉腫**があげられる。

3) 内部性状から病態および組織系を類推する

①特異的な病変

- 脂肪腫は，ほぼ脂肪組織から構成されている**ため**，CT値は約－100 HUで，T1強調像にて**高**信号である。
- 気腫やガス壊疽は，筋膜隙（組織隙）に気体濃度が貯留する**ため**，CT値は約－1,000 HUで，MRIにて**無**信号である。